

# ◇ 五老ヶ滝 (ごろうがたき)

領内名勝図巻 第一巻 上益城郡矢部手永之内 衛藤良行筆

矢部の通潤橋の下を流れる五老ヶ滝川にかかる落差約 50m の熊本を代表する名瀑です。狩りでこの地を訪れた細川斉茲公がその規模や滝壺の美しさなどに感動し、絵師たちに写生するよう命じたことが、《領内名勝図巻》編纂の発端になったと伝えられています。《領内名勝図巻》に描かれた数ある滝の中でもこの滝は随一の見どころで、その姿も当時とほとんど変わっていません。滝の名の由来は、勅使烏丸大納言光康に「ご覧に入れた滝」が「ご覧の滝」になり、そこから「五郎ヶ滝」となったと言われています。

「五老ヶ滝」は、江戸時代に矢部手永の惣庄屋 布田保之助の尽力により建築された日本最大級の石造りアーチ水路橋「通潤橋」(国指定重要文化財)のすぐ近くであり、山都町にある滝の中では水量、落差ともに最大で、流れ落ちる水が起こす滝風により滝壺全体に飛沫が飛び散り、その迫力を見る者を圧倒します。滝壺の壁面は、阿蘇からこの地方にかけての滝によく見られる柱状節理になっています。



滝壺前より撮影



ドローンで撮影した五老ヶ滝



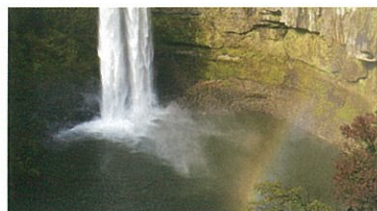
永青文庫所蔵



現在の風景



所在地：熊本県上益城郡山都町長原



ギャラリーに設置してあるタッチパネル式ディスプレイで 4k 画質の動画をお楽しみいただけます